【科研費応募支援ニュースレターNo.21】　発信日　24050１（水）
タイトル＿他大学での科研費申請支援について調べてみました

教育職員各位

URA 髙木敦子

いつもお世話になり、感謝申し上げます。URA の髙木敦子です。
令和６年度がはじまりました。本年度も産業研究所事務室は令和７年度科研費申請支援等を展開していきたいと思います。ご協力を何卒宜しくお願いいたします。
まず、現在、行っています支援としては、現在、公募期間中の特別研究員―DC 申請、研究活動スタート支援申請です。採択者のご厚意による申請書閲覧や URA による面談はいつでも行っております。そして、おそらく７月頃公募開始されます科研費申請に向けて、学外講師によるセミナーや科研費採択経験者・審査委員経験者の学内講師によるセミナー、ロバストによる申請書レビューなどを行っていく予定です。

学外講師による科研費申請支援セミナーとしては、令和４年度には『科研費獲得の方法とコツ』・『科研費申請書の赤ペン添削ハンドブック』の著者である児島将康先生(久留米大学 分子生命科学研究所 教授)による「科研費獲得セミナー」を開催いたしました。令和５年度には小寺孝太郎氏（独立行政法人日本学術振興会　研究事業部研究助成第三課・課長）による「科学研究費助成事業について」のセミナーを開催いたしました。
令和６年度にはどのような学外講師によるセミナーを開催するのが、先生方の科研費申請に有効であるかを考えているところです。そこで、学外講師によるセミナーも含め、研究費（特に科研費）申請にどのような支援が行われているか（プレアワード業務）に関して、各大学のホームページで調べてみました。とくに科研費採択件数の多い大学から、見てみました。多くは学内限定となっておりますので、情報は限定的なものです。

申請書のブラッシュアップ、個別面談、科研費獲得支援に関わるセミナーなどの開催は URA をおいている大学では一般に行われています。さらに、本学と同様、ロバスト社の支援を受けている大学もあります。アドバイザー制度を取り入れている大学もあるようです。これは、科研費申請を行いたい、主に若手の研究者と、相談役として、学内あるいは定年退職した科研費採択・審査委員経験者の教員を繋ぐ役割をする活動のようです。

科研費獲得に関わる学内外講師によるセミナーの開催も各大学で行われています。やはり、本学でも講演いただいた児島将康先生のセミナーを開催されている大学は多かったです。他に、『「採択される申請書の書き方とコツ」・「大型種目へのアプローチ」』などのセミナータイトルが見られました。
研究全体に関わるセミナーとしては、『実例から学ぶデータマネジメントプラン作成』（東京大学　石田賢示先生）、『英語によるプレゼンテーションを学ぶ』

（Nature 社　Jeffrey Robens 先生）、『論文投稿講座　論文作成に役立つ研究メソッド編』（クラリベイト社　熊谷美樹先生）、『研究戦略セミナー　研究の国際評価向上に役立つ個人的変革と組織的変革の策』（ニューヨーク州立大学　増田 直紀先生）、『世界を体感して研究を進める厳しさ・やりがい・面白さ』（カリフォルニア大学　野村泰紀先生）などがありました。本学でも、数年前に英文論文執筆支援のセミナーが開催されました。

本年度は、前半には科研費獲得に特化した外部講師によるセミナーを開催し、後半には科研費申請締切後に研究全般を支援できるようなセミナーを開催してもよいかもしれないと考えています。

科研費申請書作成において、忙しい審査委員に理解していただくことがまず、第一ですので、申請内容が一目でわかる概要図や、実験計画内容がわかりやすく書かれている図などが重要と思われます。そのため、例えば、前半には『狙って獲りにいく！ 科研費採択される申請書のまとめ方』の著者である中嶋亮太先生（国立研究開発法人海洋研究開発機構　グループリーダー）、後半には『研究者のための思考法 10 のヒント ： 知的しなやかさで人生の壁を乗り越える』などの著書がある島岡要先生（三重大学大学院医学系研究科　教授）、『ライフハックで雑用上等～忙しい研究者のための時間活用術』（北里大学 大村智記念研究所 教授　阿部章夫先生）などを検討しています。なお、中島先生の本は各学科事務室に配架いただいています。

現在、まだ、検討の段階ですので、他にも、この先生のお話を聴いてみたいというご希望がございましたら、ご連絡いただけますようにお願い申し上げます。

他大学と同じようなことをしているだけでは、なかなか申請数の増加及び、採択率の上昇にはならないとも思います。知人の勤務している A 大学では、科研費申請をしない教員は理由書を提出する義務があり、それは学内限定ではありますが、公開されるということです。申請しない理由は研究費が必要な研究ではないということもあるかもしれませんが、体調が良くなかった等の場合もあるかもしれず、結構、プライベートな内容になる可能性もあるかもしれません。また、無理に申請数を増やすことは審査委員の負担を多くすることに繋がり、あまり勧められる手段ではないと私は思います。

しかし、A 大学には、それほどのことをしないといけないという危機感があるということも事実ではないでしょうか。大学の使命とは何かという問いに立ち返ったときに、研究を進め、良い成果を出して、社会に貢献していくことであるのは、教育基本法にも定められており、大学で働く者の共通認識であると思います。社会貢献の前提である教育と研究の両輪の片方である研究遂行がスムーズでない状態になると、教育の方にも当然、影響が及ぶと思います（参考資料 1）。教育と研究の関係、研究が及ぼす教育への効果については、自分なりに勉強をして、別の機会にニュースレターに書くことができればと考えております。

本学の研究力の向上のためにも、科研費採択数を上げるということに、本年度もできる限り努めていきたいと思っております。ご協力のほど、何卒宜しくお願い申し上げます。

本学 web サイト【研究・社会連携»科学研究費助成事業】ページ内に、科研費の応募支援や研究支援に関する情報が掲載されています。
https://www.osaka-sandai.ac.jp/research/grantinaid_scientific_research.html
【ID: kenkyu　パスワード：sanken3001】

これからも、科研費申請や研究に関し、情報共有のためメール発信させていただき、なにか少しでも先生方のお役に立てればと願っております。ご不明点、ご意見、ご希望などございましたら、メールで URA　高木敦子（8atakagi@cnt.osaka-sandai.ac.jp）まで、お伝えください。
失礼いたします。

＜参考資料＞
参考資料 1：「学士課程教育と研究　大学における教育と研究の関係を考える」
村田直樹（日本学術振興会理事）日本私立大学協会　アルカディア学報　No. 290
https://www.shidaikyo.or.jp/riihe/research/290.html

追伸：　3 月 19 日送信させていただきました『科研費応募支援ニュースレターNo.20＿令和 7 年度科研費申請に向けて』に関しまして。
「KAKEN データベースで、今回の科研費申請の採択課題が反映されるのは、おそらく来年の 1 月か 2 月頃と思われますので、今回、先生が申請された区分の過去の採択課題などをご覧いただき、どのような課題が重要課題と審査委員に認識されているのかをご確認いただけましたらと思います。」と、書かせていただきました。
令和 6 年度の科研費申請の採択課題は KAKEN データベースに反映されていましたので、訂正させていただきます。